

朝鮮語の副詞「모두」と「다」の意味と学習指導に関する考察
 On the Meaning and Teaching Method of the Korean Adverbs
 ‘mo-du’ and ‘da’

仲島淳子（関西大学外国語教育学研究科）

Junko Nakajima (Kansai University, Graduate School of
 Foreign Language Education and Research)

要旨

本研究は、日本語母語話者の朝鮮語学習者に誤用が多く見られる、朝鮮語の副詞「모두」と「다」の意味について、先行研究を基に朝鮮語母語話者の使用例と照らし合わせ分類し、使用範囲を定め、指導方法について考察を行った。副詞「다」には4つの意味があり、そのうちの1つの用法で「모두」との意味の重なりがある。その用法である「すべて、全部、皆」という意味を表す際、「모두」は修飾しようとする対象が「個別化」して「限定されたもの」に用い対象を個別に認識するが、「다」は対象を個別に認識はしないことがわかった。さらに数字とともに使えるのは「다」のみであった。そして「모두」の使用範囲が非常に狭いということから、初級者に対しては「すべて、全部、皆」には「다」を用いる指導を行い、中級以降の段階で「모두」と「다」の違いを用例と共に指導をしていくことが望ましい。その際、選択の目印として使用できるフローを示した。

キーワード 個別化、限定されたもの、書き言葉、話し言葉 / Individualization, Limited, Written Language, Spoken Language

1. はじめに

日本語の副詞「すべて、全部、皆」に該当する朝鮮語として「모두、다、전부」などがある。これらの語彙はそれぞれ、文章の中で交換可能な場合とそうでない場合がある。日本語母語話者にとって朝鮮語は文法や語彙が似ているため、他の言語に比べ比較的学びやすい言語であると言われているが、日本語に置き換えてしまうことによる誤用も多い。この「모두、다、전부」は使用の範囲があいまいであるため、そういった日本語母語話者の誤用が多い語彙として挙げることができる。特に「모두」と「다」は、ハングル能力検定試験5級¹及び韓国語能力試験初級²レベルの語彙であり、大学の授業では初級段階で学ぶにも関わらず、中級、上級段階でも誤用が見られる。そこで本研究では、「모두」と「다」の副詞としての使用範囲について意味を中心に考察を行い、それらを分類し、今後の指導における目安にしたい。

2. 先行研究

朴賢正（2004）は、日本語の数量名詞「全部・すべて・みんな」と韓国語の「전부・모두・다」を対照考察し、「모두」は「限定されたモノ・コトガラの全数量、全員、限定された場所の全体」、「다」は「限定されたモノ・コトガラの全数量、全員、ひとまとまり性」と意味分類している。

「모두」と「다」に共通する「限定されたモノ・コトガラの全数量」はすべて、モノあるいは抽象的なコトガラの対象の数量を表し、「全員」は、主体あるいは対象の全体の人数を表しているとしている。さらに、「모두」の「限定された場所の全体」は、限られた場所を占める割合を表し、「다」の「ひとまとまり性」では、「다+動詞」は基本的に運動が完全にいたること意味するため、完成性を持っていない状態動詞（있다, 계시다, 아프다）、過程性のない瞬間動詞（땀다, 다치다）は、「다」と共起できず、完成性を含んでいる過程動詞は共起でき

る動詞としている。この「ひとまとまり性」の中で、「다」が「-았-」と結合して未来の状況を述べ、否定の意味だけを表す用法があるが、これは「다」だけが持つ特徴で、「전부」あるいは「모두」を入れ替えることができないとしている。朴賢正 (2004) では、日本語「全部・すべて・みんな」と韓国語「전부・모두・다」について共通の意味分類を行っているが、「전부・모두・다」それぞれの入れ替えの可否については、この一部分に触れるのみにとどまっている。

김경원・김철호 (2010) は、「모두」と「다」の違いを次のように述べている。まず、①基本的に「다」は完全な状態が消耗し、なくなる状態を想定している反面、「모두」はひとつひとつが集まって全体をなす状態を前提にしている。②「다」が数えられるものと数えられないものすべてに使われるのに対し、「모두」は個々に数えられるものだけに使われる。③事の進行や過程が最後の段階や状態に差し掛かったことを指すときには、「다」を使う。④「다」を目的語に、「모두」を名詞として使うと不自然である。⑤叙述語を強調するときは「다」を用いる。⑥「あげる」に使う場合、「다」は所有物だけでなく愛情のような内面的なものまで、「모두」は目の前に見えるものに焦点を置く感じである。以上のように「모두」と「다」の違いを区分している。

尹惠珍 (2015) は、韓国語母語話者の日本語学習者が引き起こす副詞の誤用の原因として、母語で訳された辞書のほとんどが韓国語に対応する語と基本的な使い方を示した例文だけであり、直訳を通しての理解を求めるものにほかならないということ、教科書の「形(文法)」を重視した副詞の提示法が誤用を招いていると述べている。また、両言語の使用範囲の違いについても指摘している。これは、日本語母語話者の朝鮮語学習者についても同様のことが考えられる。

김현지 (2020) は、口語に限定し、副詞「다」を個体量化、状態量化、行為量化の3つの類型に分類している。個体量化は数を表す表現と共に使用される傾向があり、また一般性や普遍性を持つと判断する場合に使用される。行為量化は、行為の

[+過程性]を表す特徴があり、行為性用言のすぐ前に先行する場合がほとんどであり、状態量化は、行為が完了した時点以降の持続的な維持を表したり、数えにくい対象を表現するのに使用されるとしている。

これら先行研究は主に「모두」と「다」の違いや、副詞としての特徴について考察されたものであり、学習者の誤用に関する言及はなく、また指導方法を扱ったものはない。本研究では、先行研究で提示された「모두」と「다」に関する意味の特徴を基に、実際の使用例と照らし合わせ、使用範囲を分類し、指導方法を提示していく。

3. 研究方法

「모두」と「다」が持つ意味について、先行研究を基に実際の使用例と照らし合わせ分類し、使用範囲を定める。実際の使用例については、韓国の国立国語院が構築したコーパス資料「21세기 세종계획」の形態素コーパス(文語 10,130,363 語節、口語 805,646 語節)、平文コーパス(文語 36,942,784 語節、口語 805,646 語節)を使用し、例文では()内にコーパスの種類(文語:文、口語:口)とファイル名を記入した。

4. 「모두」と「다」の語源と意味

「모두」と「다」は一般的に程度副詞と呼ばれる。程度副詞は、森田良行 (2008) によると、述語動詞の様態の程度をより具体的にさせる修飾語の副詞であり、事物の程度や量的概念を修飾するとされている。

それぞれの語源は、「모두」が「모으다(集める)」の昔の言葉から生まれた言葉であり【모도(능엄) ←모도다←물·+·오/우←물다】、「다」は「다하다(尽くす)」から生まれた言葉であり【<다하다(석상) ←[다+ㅎ-]/다오다(석상)】、「모두」は集めるという言葉が、「다」は尽くすという言葉が前提となっている。この点について、김경원・김철호 (2010) では「다」がひとつの事物の全体を指す半面、「모두」はいくつかの事物をひとつひとつもれずに指すという点で大きな差があると述べてい

る。

4.1. 「모두」の意味範囲

韓国の国立国語院『표준국어대사전』では、「모두」を次のとおり解説している。(()内は著者訳)

[I] 「명사」(名詞)

・ 일정한 수효나 양을 기준으로 하여 빠짐이나 넘침이 없는 전체. (一定の数や量を基準として抜けや溢れのない全体)

[II] 「부사」(副詞)

・ 일정한 수효나 양을 빠짐없이 다. ≒공히. (一定の数や量をもれなくすべて≒もらさずに)

辞書の説明から、副詞「모두」は「残ったり抜けたることなくすべて」という意味が基本となるが、「一定の数や量」という前提がある。

- (1) 그의 몸에 붙어 있던 균살들은 모두 어디로 갔는지 그는 십 년은 늙어 보였다. (文 : BREO0315)
- (2) 그녀는 남자가 꺼내주는 맥주를 얼른 받아 들고는 긴장한 탓에 모두 마셔버렸던 것이다. (文 : BREO0315)

김경원・김철호 (2010) では、液体や気体のような物質名詞、愛、平和、最善のような抽象名詞には「모두」が使えず、個々に数えられるものだけに使われると指摘している。しかし(1)(2)とも「모두」にかかる名詞は「ぜい肉」「ビール」であり、個々に数えられるものではない。これらは、話題となっている名詞「ぜ이肉」「ビール」が、「彼の身体についていたぜ이肉」、「男性が取り出したビール」というように、対象を個別に認識しているため、「모두」の使用が可能となっていると考えられる。この(1)(2)は、「모두」の部分で「다」にしても文章が成立する。その際、「모두」は対象を「個別化」した「限定されたもの」と認識しているのに対し、「다」にはそのような認識はない。

朴賢正 (2004) は「모두」が「다」とは異なり、「限

定された場所の全体」という意味を持つとしている。

- (3) 컵 윗면을 모두 덮도록 충분한 양의 휘핑크림을 얹는다. (文 : BTBD0236)
- (4) 다리를 모두 감싸는 긴 고무장화를 신고 얼음장같이 차가운 바닷물에 뚱뚱 떠서 표류하던 때의 공포감의 생생함은 여전히 문학에 꿈을 간직하고 있던 이명섭의 감각을 자극하기에 충분했다. (文 : BTEO0092)

(3)(4)は、すぐ後ろに「덮다」「감싸다」といった行為動詞が続く。こちらも(1)(2)と同様に、「다」との入れ替えが可能であるが、「모두」を使用した文は、(3)では「컵から上面」を限定し、(4)では「身体の部位である脚」を限定している。このように「限定された場所の全体」というよりは、「ある全体」から「個別化」し「限定されたもの」という認識で対象をとらえる場合に、「모두」を使用する。

4.2. 「다」の意味範囲

韓国の国立国語院『표준국어대사전』では、「다」を次のとおり解説している。

[I] 「부사」(副詞)

- ・「1」 남거나 빠진 것이 없이 모두. (残ったり抜けたものがなくすべて)
- ・「2」 행동이나 상태의 정도가 한도(限度)에 이르렀음을 나타내는 말. (行動や状態の程度が限度に達したことを表す言葉)
- ・「3」 일이 뜻밖의 지경(地境)에 미침을 나타내는 말. 가벼운 놀람, 감탄, 비꼼 따위의 뜻을 나타낸다. (コトが意外な事態に及ぶことを表す言葉。軽い驚き、感嘆、皮肉などの意味を表す)
- ・「4」 실현할 수 없게 된 앞일을 이미 이루어진 것처럼 반어적으로 나타내는 말. (実現できなくなった先のことを既に成されたことのように反語的に表す言葉)

[II] 「명사」(名詞)

- ・「1」남거나 빠짐없는 모든 것. (残ったり抜けることなくすべてのもの)
- ・「2」더할 나위 없는 최상의 것. (この上ない最上のもの)

まず「모두」との違いは、最初に副詞の解説があり次に名詞が来ることである。「모두」は名詞、副詞の順であった。つまり、「다」は副詞としての用法が中心ということになる。そして、意味の範囲も「다」のほうが広いことがわかる。

「1」のとおり、「다」も「모두」と同様に「残ったり抜けたものがなくすべて」という意味が最初に説明されており、朴賢正(2004)の意味分類では「限定されたモノ・コトガラの全数量」となっていた。そして김경원・김철호(2010)によると「다」は「모두」とは異なり、数えられるものと数えられないものすべてに使われるということであった。

- (5) 내가 어디에서 자는지 어디에서 밥을 먹는지, 남자는 다 알고 있었다. (文: BREO0315)
- (6) 설명하고 나서도 대부분 다 허락을 안해 줘. (口: 6CT_0049)
- (7) 왜 이렇게 말하는 건지 그 순간 내 마음을 환히 다 알고 있었다. (文: BREO0315)

(5)~(7)の「다」は「余すことなくすべて」という意味で用いられている。そして(5)(6)は「다」の部分に「모두」を入れても文章として成り立つ。しかし、(7)のように対象が抽象名詞の場合は、「다」を選択する。これは抽象名詞は個別化してとらえないためである。市川保子他(2010)で韓国人母語話者の日本語学習者が書いた作文の誤用分析を行う際、「みんな」は「一定の範囲内ですべてのもの」という意味であるが、総体として漠然ととらえる意味合いも持つと指摘している。朝鮮語の「다」にも同じような役割があり、日本語の「みんなそう言うてる」のように、限定されたものを話すのではなくただ漠然とした「みんな」をあらわすときにも「다」を

用いる。

- (8) 그들이 주전자의 술을 다 비우고, 밖으로 나왔을 때엔 열시 반이 조금 지나 있었다. (文: 4BE86004)

(8)は、「모두」と同じく行為動詞が後続する文である。「모두」は、「ある全体から個別化され限定されたもの+行為動詞」が特徴であったが、(8)は「余すことなくすべて」という意味であり、対象を特に「個別化」する印象を与えてない。

- (9) 이상한 일 다섯 가지를 다 보게 되면 그때 자기는 이 세상에 없는 거라나. (文: BREO0315)
- (10) 체구가 비슷한 녀석들이 한참 동안 치고 받아 들 다 얼굴색이 빨갱게 변했다. (文: BREO0315)

(9)(10)は数字に後続する形であるが、「다」部分に「모두」を変わりに入れてみると、(9)の助数詞を伴う場合は不自然ではないが、(10)は不自然となる。(10)の「들 다」が「두 사람 모두」であれば可能なことから、数字とともに使えるのは「다」であるが、助数詞を伴った場合その制限がなくなる。

- (11) 하느님, 이 세상 모든 사람이 공평하게 모두 다 잘 살 수 있도록 해주시고 (文: BTHO0102)
- (12) 이 네트워크 연결들이 모두 다 같이 적용이 되는데요? (口: 8CT_0016)
- (13) 우리 모두 다 함께 찾아 보아요 (口: 5CM00049)

「1」の用法では、(11)~(13)のように、副詞を重複して使用することが可能であり、それぞれ「모두」と「다」に「잘」、「같이」、「함께」といった副詞が後続している。「모두」と「다」が共起する際の語順について、形態素コーパスで数を調査したところ、「모두 다」が文語で177個、口語で20個に対

し、「다 모두」は文語で1個、口語で0個であり、ひとつ確認された「다 모두」も、「둘 다 모두」のように、数字が先行しており、これは先に言及した「모두」が数字に直接後続しないことが原因と考えられる。その他の副詞も、「모두 다 같이」が文語2個、口語1個、「모두 다 함께」が文語8個、口語2個となっており、「모두 다」の前に他の副詞が先行する、或いは「모두」と「다」の間に入るといったものはなかった。このことから、「모두」と「다」が共起する場合、「모두 다」というコロケーションの特徴があり、「모두 다」の結びつきが強いため、さらに他の副詞が共起する場合は「모두 다」に後続しかできない。

「2」の「行動や状態の程度が限度に達したことを表すという意味」については、朴賢正(2004)は「ひとまとまり性」とし、「다+動詞」は基本的に運動が完全にいたること意味するとし、김경원・김철호(2010)では、「事の進行や過程が最後の段階や状態に差し掛かったことを指すときには、「다」を使う」としている。

- (14) 젓을 다 먹은 아기가 젓꼭지를 꼭 빨었다. (文: BREO0315)
- (15) 시간이 너무 많이 흘러서 이미 여름이 다 지나가버린 느낌이였다. (文: BREO0315)
- (16) 찾다가 시간 다 걸리구 (口: 6CM00020)

(14)は、空腹だった赤ちゃんのお腹がいっぱいになったことを表し、(15)は、夏という期間があり、それがすべて終わってしまったことを、(16)は限られていた時間が探している間に終わってしまったことを表している。これらは、時間の経過とともに、0の状態から100に向かって変化していく過程を表しており、このように時間の経過とともに変化する過程を表す場合は、「다」しか使用できない。

「3」の「コトが意外な事態に及ぶことを表す言葉。軽い驚き、感嘆、皮肉などの意味を表す」の用例で「네가 선물을 다 사 오다니, 이게 웬일이

냐?」があるが、これについては、김경원・김철호(2010)では叙述語を強調するときは「다」を用いると説明している。

- (17) 별 걱정을 다 하네. (文: BREO0315)
- (18) 오죽하면 이날 청와대 앞마당에 벼락이 다 쳤겠습니까? (文: 5BJ97001)

(17)の「다」は聞き手が心配していることが意外、あるいは驚きといった意味で使われていると考えられる。そして(18)は、文章全体を皮肉っぽくする目的で使われている。これら(17)(18)は、文章から「다」を削除しても、意味が大きく変わることはない。このような用法は「모두」ではなく、「다」のみが持つ用法である。

最後に、「4」の「実現できなくなった先のことを既に成されたことのように反語的に表す言葉」としての「다」である。

- (19) 비가 오니 소풍은 다 갔다. (『표준국어대사전』用例より)

(19)は、「雨が降っているから遠足に行った」という文章に「다」を加えることで、「雨が降ってるから遠足はもういけない」という内容を表している。このような用法も、「다」のみが持つ用法である。

4.3. 「모두」と「다」の意味のまとめ

副詞「모두」と「다」の意味をまとめると次の通りである。まず「모두」は修飾しようとする対象が「個別化」して「限定されたもの」に用いられ、対象を個別に認識するが、「다」は「余すことなくすべて」という意味であり、対象を個別に認識はしない。そして、行動動詞が後続する場合、「모두」は「ある全体」から「個別化」して「限定されたもの」に接続するが、「다」は「余すことなくすべて」という意味であり、対象は「個別化」されていないものにも接続する。さらに、数字とともに使えるのは「다」であるが、助数詞を伴った場合、その制限がなくなり「모두」も使用できる。

また、「모두」ではなく、「다」のみが持つ用法として、①時間の経過とともに変化する過程を表す場合、②感嘆や、文章全体を皮肉っぽくする目的で使う場合、③実現できなくなった未来のことを既に成されたことのように反語的に表す場合がある。

そして「모두」と「다」が共起する場合、「모두 다」というコロケーションの特徴がある。この「모두 다」の結びつきが強いため前後を入れ替えることはできず、また他の副詞を共起させる場合、「모두 다」に後続しかできないという特徴がある。

最後に、副詞「모두」と「다」の書き言葉と話し言葉での使用頻度の違いについて簡単に考察しておく。

表1は「21세기 세종계획」の形態素コーパスにおける、「모두」と「다」の1万語当たりの頻度数である。

表1 「모두」と「다」の1万語節あたりの頻度

	形態素コーパス (文語)	形態素コーパス (口語)
모두	8.13	1.01
다	8.28	47.63

これらの頻度数の差をイエーツの補正を用いたカイ二乗検定で分析した結果が表2である。

表2 「모두」と「다」の頻度数のカイ二乗検定結果
(ボンフェローニ補正により2.5%を有意性の判断基準とする)

頻度副詞	χ^2	df	p値	検定結果	頻度が高いコーパス
모두	497.5514868	1	<.001	有意差あり	形態素コーパス (文語)
다	10342.11009	1	<.001	有意差あり	形態素コーパス (口語)

その結果、「모두」と「다」の頻度は、形態素コーパス (文語)、形態素コーパス (口語) 間において、有意水準 2.5%で差があり、「모두」は話し言葉より書き言葉で多く用いられ、「다」は書き言葉より話し言葉で多く用いられることがわかった。

(20) a. 둘러봐도 구경꾼은 모두 노인들뿐이었

다. (文: BREO0315)

b. 둘러봐도 구경꾼은 다 노인들뿐이었다.

(20)a は文語コーパスからの文章であるが、この文章を話し言葉っぽくしようとするには、「모두」の部分「다」に入れ替え、(20)b のようにすればよい。

5. 「모두」と「다」の指導

「모두」と「다」は、日本語母語話者の誤用が多い語彙として挙げることができ、また「모두」と「다」いずれも初級段階で学ぶ語彙である。

まず、日本語母語話者の朝鮮語学習者が起こす誤用の例を見てみる。(21)(22)は印省熙 (2020) 『日本語母語話者韓国語学習者の作文資料と誤用例データ (2020年試験運用版)』に掲載された、朝鮮語を専攻する大学2年生の作文データであり、[]内は教師による添削情報、()内はデータの通し番号である。(23)は KC Corpus³ に収録された日本語母語話者で韓国語能力検定2級レベルの朝鮮語学習者が作成した作文データであり、[]内は教師による添削情報、()内はファイル No. である。

(21) 외식이면[할 때] 그 부채를[반찬을] 모두 [다] 먹어도 다시 줄 수 있는[주는] 점에 놀랐습니다. (No 1416)

(22) 제[저희] 가족은 다[모두] 매일 일찍 일어나요. (No 1100)

(23) 일본에서는 비슷한 풍습이 없어서 가족 들은 다[모두] 동시에 먹기 시작합니다. [시작합니다.] (k10009)

(21)は、「おかずを余すことなくすべて食べても」という意味であるため、「다」を使うのが望ましい場面である。そして、(22)(23)は、対象である家族をひとりずつ個々にとらえ「家族ひとりひとりみんな」という意味であるため、「모두」を使うのが望ましい場面である。しかし、初級段階でこれら2つの副詞が修飾しようとする対象を、しっかり

把握することは非常に困難である。

また、前章で副詞「모두」と「다」の意味内容を考察し、「모두」と「다」では意味範囲に大きな差があり、「모두」に比べ「다」の意味範囲が広いことを確認した。そして、実際の朝鮮語母語話者の書き言葉および話し言葉において、コーパスの頻度数から圧倒的に「다」が多く使われていることを考えると、朝鮮語学習の初級段階で「모두」と「다」を「すべて、全部、皆」という意味として学ぶことに問題があると言える。まず、初級段階で副詞「すべて、全部、皆」にはすべて「다」を用いるよう指導し、ある程度朝鮮語が上達した中級後半に、「모두」を指導すべきである。そして、名詞「모두」が形態素コーパスで1万語当たりの頻度数が文語 2.3、口語 0.3 となっていることから、初級段階で学ぶ「모두」は、作文指導で名詞として指導する。その際、「모두가」「모두를」「모두에게」のように助詞を接続した形態が含まれる実際の用例と共に提示することが必要である。

次に、中級後半からの副詞「모두」と「다」の指導である。「다」の意味は表3の通り、大きく4つに分類できる。

表3 副詞「다」の意味分類

①	「すべて、全部、皆」という意味を表す。
②	時間の経過とともに変化する過程を表す。 例) 시간이 <u>다</u> 됐어요. (時間になりました)
③	感嘆や、文章全体を皮肉っぽくする目的で使う。例) 네가 나를 <u>다</u> 찾아오다니, 놀랐네 (お前が俺を訪ねてくるなんて驚いたよ)
④	実現できなくなった未来のことを既に成されたことのように反語的に表す。例) 숙제도 안 하고 <u>다</u> 오늘 게임 <u>다</u> 했다. (宿題もやってないからお前、今日はゲームできないな)

このうち②~④は「다」だけが持つ特徴であるため、比較的習得に問題はないと思われる。指導の

際は、必ず例文を提示しながら指導を行い、実際に学習者が作文或いは発話を行う授業を実施する。①については、まず「数字に後続するかしないか」を基準とし、後続する場合は「다」を用いる。次に修飾しようとする対象が「個別化され限定されたもの」であり、個別に認識する場合、書き言葉には「모두」を話し言葉には「다」を用いる。そして、修飾しようとする対象が「個別化され限定されたもの」でなく、個別に認識はしない場合は「余すことなくすべて」という意味であり、「다」を用いる。「모두」と「다」を一緒に用いる場合、コロケーションに注意し、必ず「모두 다」という形態とし、他の副詞を共起させる場合は、「모두 다」の後ろに接続する。図1は選択のフローを図で表したものである。

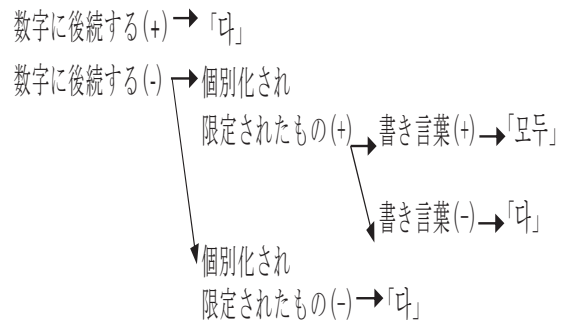


図1 「すべて、全部、皆」を表す副詞の選択フロー

ここまで「모두」と「다」の指導について、述べて来たが、最も重要なポイントは「모두」の使用範囲が非常に狭いということである。そのため、初級者に対してはすべて「다」を用いる指導を行い、中級以降の指導は、例文を提示しながらこの選択フローを利用することで、より効果的な指導をすることが可能である。そして、こちらも必ず学習者による作文、発話といったアウトプットを伴う授業の実施が必要である。

6. おわりに

本研究では、副詞「모두」と「다」について、その意味から使用範囲を中心に考察し、それらを4つ

に分類した。そして、「다」だけが持つ意味と、「모두」と「다」とも持つ意味に分け、後者について「数字に後続するかないか」「個別化され限定されているか」「書き言葉か話し言葉か」という基準から副詞を選択できるようフローを用いた指導について提案をした。意味の分析に使用したデータは、朝鮮語母語話者の書き言葉と話し言葉のデータであり、実際の使用を基に意味の考察をし、分類を行うことができたので、一般的な朝鮮語学習者に対する学習指導については提案をすることができたであろう。しかし、日本語母語話者の朝鮮語学習者がどのような場面で「모두」と「다」を間違える傾向があるのかという部分まで考察することができなかった。今後、さらに実際の誤用例を収集し、それを用いて分析していくことで、日本語母語話者に特化したより効果的な指導方法を提案することを今後の課題としたい。

註

- 1 ハングル能力検定協会が主催する検定試験。60分授業を40回受講した程度のレベルである。
- 2 韓国教育財団が主催する検定試験。1級は約800語程度、2級は約1,500~2,000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる程度のレベルである。
- 3 日本の大学で韓国語を学習する日本語母語話者152人の作文データ(20,905語節)である。

参考文献

- 최재희. (2005). 한국어 전칭양화사 구문의 구조와 의미 해석. *한글*, 267, 89-118.
- 市川保子他 (2010) 『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク.
- 印省熙 (2020) 『日本語母語話者韓国語学習者の作文資料と誤用例データ (2020年試験運用版)』
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 (2018) 『言語研究のための統計入門』くろしお出版.
- 김현지. (2020). 한국어 구어 담화에서 부사 ‘다’ 연구. *담화와 인지*, 27(1), 75-102.

- 김경원·김철호. (2010). *국어 실력이 밥 먹여 준다-낱말편 2*, 유토피아.
- 国立国語院 (2011) 「21世紀世宗計画」成果物 DVD-ROM
- 国立国語院 (2019) 『표준국어대사전』 (<https://stdict.korean.go.kr/main/main.do>) (2023年1月10日)
- 林 炫情・李 在鎬・黄 晷媛・浅尾 仁彦 (2011) 「韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) と韓国語教育への活用」『山口県立大学学術情報』5, 43-51.
- 森田良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の事典』東京堂出版.
- 남광우. (1997). *교학 교어사전*, 교학사.
- 朴賢正 (2004) 「日本語の数量名詞の「全部・すべて・みんな」と韓国語の「전부・모두・다」との対照考察」『人間文化論叢』7, 389-398.
- 尹惠珍 (2015) 「副詞使用の誤用とその原因について—韓国語を母語とする日本語学習者の副詞の誤用例を参考に」『日本語/日本語教育研究』6, 115-122.

謝辞

本研究では、Korean Studies Grant 2008 (課題番号: AKS-2008-R15) の成果物である「KC Corpus (<https://w.atwiki.jp/kccorpus/>)」を利用した。